

令和 7 年度下水道作文コンクール

入賞作品集



京 都 府

令和7年度 下水道作文コンクール 入賞者一覧 (京都府知事表彰)

※応募者・入賞者はすべて4年生
※五十音順、敬称略

賞	氏 名	タイトル	学校名	ページ
最優秀	あしはら みく 葦原 実空	浄化センターってすごい	長岡京市立長岡第六小学校	1
優秀	のがみ しほ 野上 志帆	水のために	長岡京市立長岡第六小学校	2
優秀	ふじた まお 藤田 真央	水と地球の未来	長岡京市立長岡第六小学校	3
優秀	ほりお しゅんすけ 堀尾 駿介	くらしをささえる浄化センター	長岡京市立長岡第六小学校	4
佳作	いとう みか 伊藤 実香	二手に分かれた、水の先	長岡京市立長岡第六小学校	5
佳作	うえつき あおい 植月 仰	美しい自然を守るために	長岡京市立長岡第六小学校	6
佳作	おか いちか 岡 初華	洛西浄化センターってめっちゃすごい	向日市立向陽小学校	7
佳作	おもて れいか 表 滢花	洛西浄化センターに行って	向日市立向陽小学校	8

※掲載した作品は、すべて提出いただいた原稿の表現のまま活字化したものです。

最優秀賞

浄化センターってすごい

長岡京市立長岡第六小学校

四年

葦原 実空

みなさんは、わたしたちが使った後の水がどうなるか知っていますか。わたしたちが使った水は、洛西浄化センターへ行き、きれいになって桂川に流されます。

わたしは、洛西浄化センターに見学へ行きました。そこで汚れた水がきれいになる工ていを学びました。最初に流れてきた水は、茶色くて鼻をふさぎたくなるぐらいくさいにおいの水でした。その様子を見てわたしは、この水が本当にきれいになるのかなと思いました。見学が進むにつれて生物を水の中に入れる生物反のうそうでは、よごれがふえているように見えて本当にきれいになるのかなと思いだうたがっていました。最後には、いつもわたしたちがみている水と同じくらいきれいになっていたのでびっくりしました。

わたしが1番すごいなと思ったのは、24時間365日休まず浄化センターが動いていることです。それを知った時、最初は、あまりきょうみがわきませんでした。しかし、よく考えてみるとわたしたちは、水を使う時間が決まっていなくて、様々な時間に、トイレにいたり、お風呂にはいたり、手を洗ったり、ごはんをつくったり、食器を洗ったり、毎日いろんなタイミングで水を使っています。その使ったお水全ぶが下水かんを通って浄化センターに集められます。だから浄化センターが止まってしまうと、汚れた水がきれいにしよ理されないので、大変なことになるんじゃないかと思いました。

わたしは、もし浄化センターがなかったらと想ぞうしてみま

した。浄化センターがなくて下水をしよ理できなかつたら、よごれた水がながれこむきたないどぶやみぞができて町がきたなくなります。水洗トイレが使えません。海や川がよごれます。そうすると魚が食べられなくなります。想ぞうしたくありません。浄化センターが毎日動いていてよごれた水をきれいにしてくれているのは、本当にすごいことなんだとあらためて思いました。

見学をして、あんなにきたない水がきれいになることにとてもおどろきました。洛西浄化センターの人たちが、毎日がんばってくれるおかげで、わたしたちは、安心してくらすことができているんだと分かりました。これから、むだにゴミや油を流さないように気をつけて、浄化センターがきちんと働けるようにしたいです。

水のために

長岡京市立長岡第六小学校 四年

野上 志帆

みなさんは、毎日かかせない水を使ったあと、どこにいったのようにしてきれいにしていると思いますか。私は、洛西浄化センターへ見学にいつて学んできました。

まず、家庭や、学校などからよごれた水が洛西浄化センターへ行き、さいしょに、大きいごみを取り、そのあとに、つよいにおいをとります。とても小さいごみなどをび生物にたべてもらいます。その時、人間と同じで空気がないと生きていけないのでび生物にも空気を入れてあげます。

その次に、きたない水を、えきたいの中のまじり物が、そこにしずみ、さらにきれいにします。さいごに最終ちんでん池から送られた水を、しょうどくして川にもどすというかたちで、水をきれいにしています。

わたしは水をどうやってきれいになるのかを見学してこう思いました。水は、かんたんによごれるけど、きれいにするにはとても時間がかかる。だから、大切に使いたいと思いました。そのために、わたしはこういう五つの使い方をします。

まず一つ目は、おふろを入り終わったら、そのままがすのではなくて、せんたくをする時にその水を再利用したら水を大切につかえます。

二つ目は、おさらをあらう時のことです。おさらをあらうことは大切です。が、せんざいの使いすぎには注意です。なぜならたくさんつかいすぎても、水が「より」よごれるだけからです。三つ目は、せっけんをつかう時のことです。せっけんをつか

う時、つかいすぎていませんか、そのことも水を「より」よごしてしまふいんです。せっけんを使う時は、一プッシュから二プッシュでいどでよごれはとれます。

そして四つ目は、おふろで体をあらう時です。シャンプー、コンディショナー、ボディーソープをつかいすぎないようにしきしてください。シャンプーなどは、つかいすぎても水をよごすだけなのでつかう量だけつかうと良いと思います。

五つ目は、のみのこしのことです。のみのこした物は、しかたなくシンクに流します。でもそののみのをのこさずにこまめにのんだり、つかう量だけつくれば、のこさずに水を大切にできます。

この五つを守れば水をあまりよごすことなく大切につかえます。そのことで水を大切につかつたぶん水をきれいにしやすくなります。この五つをこれからの目標にしてがんばりたいです。

水と地球の未来

長岡京市立長岡第六小学校 四年

藤田 真央

私は、学校みんなとらくさいじょうかセンターに行きました。行く前に、先生からどんなところかみんなで教わりました。

私の頭の中のイメージは、大きなものからじゅんにざるのようなものでろかをする、というものでした。

ですが、行ってみると私のイメージの四分の一しかあっていませんでした。

まず、スクリーンというてつごうして大きいゴミを取り、最初ちんでんちに行きました。地面が茶色で、変なおいもして、ゴキブリも1びきいたので、本当にこんなきたくない水が、川に流せて、お魚も健康にすごせるようになるのかなと思いました。

次に生物反応そうにいき、アメンバーなどのび生物がたくさん入った活性おでいをくわえました。それから、空気をふさきこんで、アメンバーなどのび生物がたくさんふえていって、水はしだいにきれいになっていくのが一番おもしろかったです。

最後に、最しゅうちんでんちで活性おでいをゆつくりしずめて、すっかりきれいになったしより水の上ずみをしようどくして、ろかして、桂川に流します。

一番きょうみ深かったのは、び生物の説明です。アメンバーをやっていたので、アメンバーにがんばってほしいと心の中でエールを送りました。

おどろいたのは、その後です。みなさん、「あれ、しずんだ活性おでいはどうなるんだ？」

と思った方もいるでしょう。実は、だつ水きにかけて水分をとつたのち、固形ねんりょう化しせつやしょうきやくろでもやし、すみや灰にして、火力発電所のねんりょうや、セメント原りょうとしてさい利用するんですよ。はじめてこのしくみを聞いたとき、とてもエコだなと思いました。

私はじょう水場に行くまで水のむだづかいばかりしてました。手をあらうときせつけんを出しているのに水をとめない、トイレを流すとき1回以上レバーを引く、水を入れるとき入れすぎでのみきれずすててしまう：でもお話をきいて、自分がどれだけ水のむだづかいをしているのかがよくわかりました。水をあまり大事だと考えていなかったもので、水のためにがんばっている人たちを見ると、もうしわけなく思いました。

これからは、水を大切にして、水と地球の未来を守っていきたいです。

くらしをささえる浄化センター

長岡京市立長岡第六小学校

四年

堀尾 駿介

ぼくは四年のみんなと社会見学で洛西浄化センターへ行きました。最初はきたない水がどうやって美しくなるのだろうか、と思いました。

今から、きたない水が美しくなる仕組みを見ていきましょう。まず、ちんさちですなをしずめて、次にポンプ室で上まであげ、その次に最初ちんでんちでどろやごみをしずめます。次に、生物反のうそうでび生物に小さなごみを取りのぞいてもらいます。空気を入れることでび生物が活発になるそうです。ぼくがびつくりしたことは、生き物がきれいにしてくれていることです。

その次に、最終ちんでんちで活性おでいをしずめます。だいぶ美しくなったけれど、まだ完全にきれいにはなっていません。次にえんそを入れて消どくしたら急速ろかちできれいにし、かつら川に流します。最終の後にもまだきれいにするとところがあつておどろきました。

取りのぞかれた活性おでいをだつ水機にかけ水分を取り、成形ねん料化しせつやしようきやくろでもやして炭や灰にし、火力発電所のねん料やセメントの原料としてさい利用します。おでいがごみにならずにねん料になることにすごいなと思いました。

バックヤードに入れてもらったときどれだけ下へ下がるんだろうと思いました。半分くらいくると急にくさくなってきた。鼻をつままなければたおれそうになるぐらいだったので、上にもどったときは空気がおいしかったんです。でも、
「今日はいつもよりくさかった。」

としようかいしてくれた方が言ったので、

「ぼくたち、運悪いやん!!」

と思いました。でもぼくたちは、ふつうのくさが分らないから、いつもよりくさくてもくさくなくても同じだと思いました。それならここで働いている方は

「こういう所で毎日働いているのがすごいな。」と思いました。ぼくだったら一日でやめちやいます。なれてきたら三日ぐらいはいけそうですがそこで何年も働いている方たちに感じやです。

もし、洛西浄化センターがなかったら、水がじゅんかんされなくなつて、作物が育たなくなり、それを食べる人間と動物もいなくなつてしまいます。水がなくなると魚もいなくなつて、じょう発する水がなくなると雨がふらなくなつて、木も生えなくなつて地球がめつぼうしてしまふかもしれません。だから、浄化センターはこの地球になくてはならないものだと思います。

また、食べ物だけでなく、トイレやお風呂、料理まで水を使うので、生活全部ができなくなります。浄化センターがなければ、トイレの水を流せないし、お風呂は入れないし、料理は食べられなくなりません。だから浄化センターは生活面でもぼくたちのくらしをささえてくれているんだと思いました。

未来では浄化センターがいっぱいできて、水が美しくなり、自然がゆたかになって生き物がふえるといいです。

佳作

二手に分かれた、水の先

長岡京市立長岡第六小学校 四年

伊藤 実香

みなさんは、家や学校で使う、トイレや、お風呂で使った水がどこへ行くか、知っていますか？それは、洛西浄化センターです。

では、洛西浄化センターに着くまで、どんなふうに、運ばれているのでしょうか。まずは、よごれた水（使った水）を下水管へ流し、汚れたすなをしずめる、沈砂池に行き、脱臭機室でにおいを取ります。この脱臭機室は、「すぐくさいな」と思いました。

次は、生物反応槽で、少し飛ばし、最終沈殿池では、泥（活性汚泥）をしずめます。活性汚泥の中には、び生物が入っており、返送汚泥で汚泥を再利用するため、空気を入れることで、び生物が活性化します。このことを、活性汚泥と言います。そして、塩素を入れて、消毒します。急速濾過池を通った後、桂川へ流します。さつきは、説明していませんでしたが、脱臭機室で、沈めますが、その時の、泥やごみをどうするか、を説明します。

引板汚泥で、重力式汚泥濃縮タンクと、加圧浮上式汚泥濃縮タンクに、泥やごみを入れ、この機械は、泥の量を少なくする機械です。次に、1次汚泥消化タンク、その次に、2次汚泥消化タンクでは、さっきの、機械より泥の量を少なくしながら、メタンガスを作る機械です。次は、汚泥脱水機といい、泥の水分を取って、最後の汚泥焼却炉です。ここでは、泥を燃やす場所です。次には、灰貯留ホッパーと言う所に送られ、最終的には、セメントの原料としてトラックに、運ばれます。以上、泥やごみを、どうするかの説明でした。

いつも働いている、洛西浄化センターですが、もし、この浄化センターがなかったら、水のこと、大変な、人がいたでしょう。

たとえば、お風呂に入れなかったり、飲み物がなかったり、人類がほろんでいたかもしれません。なぜなら、汚い水がそのまま、川や海へ流されるのですから、魚が死んでしまい、魚が、食べられません。つまり、川だったら、山や森に流れているので、植物も育たないので、食べ物がなくなってしまうです。

このようなことに、ならないためにも、水を大切に扱うことが大切ですね。水を大切に、扱うことで、できることは、皿洗いのじや口を使わない時は、閉めることや、台所で、のこった野菜や食用油をそのまま流すのではなく、着れなくなった、服を手の半分くらいの大きさに切り、野菜や食用油を、ふいてから、お皿を洗う。という工夫があります。自分も、水を大切に扱うには、節約や、自分の身の周りで、できることを探そうと思いました。

佳作

美しい自然を守るために

長岡京市立長岡第六小学校

四年

植月 仰

みなさんは、生活などで使った水がどこへ行くのか知っていますか。その水は、浄化センターに行くのです。

まず最初に沈砂地で砂を取りのぞきます。次に最初沈殿地でどろやごみをしずめます。その次に生物反応そうで大きくて一ミリメートルの微生物によごれを食べてもらいます。このとき、活動をうながすために空気を入れます。そのまた次に最終沈殿地で活性汚泥をしずめます。ラストパートは塩素で消毒し、急速ろ過地にかけて川に放流します。

沈砂地で見たときたなかった水が、順を追っていくうちにどんどんきれいになっていき、急速ろ過地では飲めるくらいきれいになったので「この技術はすごいな」と思いました。浄化センターで働いておられる方がこう言いました。

「二十四時間三百六十五日、止めてはならないものなのです。たしかにトイレに行かない日、ごはんを食べない日はありません。また、『私たちの乙訓』で流してはいけない物を流すと、魚が住めるようになるまでおふろの水が何ほいも必要だということとが分かりました。しかも生態系がこわれてしまいます。イワナなどきれいな水に住む生き物が危ないので、まずカレーなどはしっかりと食べる!! 残った時もキッチンペーパーなどでふきとってからあらうように気をつけます。」

もしこの技術がなくなったら、大変です。たちまち町は汚物であふれ、コレラなどが流行します。町に捨てられなくなると、川や海にも捨てることになるので川や海が汚れ、住んでいる生き

物が死んでしまいます。水産業が全滅し、食料ききにつながります。こう考えたらあらためて浄化センターは重要だなあと思いました。

ぼくは遠い未来、どんなにきたない水でももとのとてもきれいな水に浄化できるようになってほしいなと思いました。そうしたらきれいな水を自然に返せるので、美しい自然を大切にできます。また、きれいな水に住む生き物のすみかをうばわず、人間と共存できます。

しかし、ゴミやシンナーなど下水道を傷つけるものや、きれいな水にするのに時間がかかるものなど、流してはいけない物まで流す人が出てくると思います。美しい自然をたもつために、まずは下水道を大切にしよう。そう思いました。

佳作賞

洛西浄化センターってめっちゃすごい

向日市立向陽小学校 四年

岡 初華

5月22日に、社会見学に行つて洛西浄化センターに行つて、学びました。

じつは、洛西浄化センターってすごい所があるのです。

水道と下水道のちがいは、水道は、やくひんできれいにしていって下水道は、びせいぶつです。わたしは、このことを聞いたとき、すごく、びっくりしました。

しかも、洛西浄化センターは、公園、しばふがあつて、そのしばふや公園の下に、下水道がしよりされている場所なのです。つまりわたしたちが、ゆうこうりようしているのです。そのきたない水を川や海にながすと、大へんなことになります。なぜなら、川、海は、魚がいます。そしてそのきたない水を、川や海にながすと、魚がいなくなつて、わたしたちが魚をいただくことができなくなります。なのでダメですよね。だから下水道があるのです。なので下水道は、すごく、活やくしていますね。

下水道がつまると、ものすごく大変なことになります、しかも、あぶらなどがすと、ばくはつするので、ながさないでください。

下水道のれきしは、すごく今から、4000年前からあるのです。昔から、水をきれいにする仕方は同じなのです。

つぎは、びせいぶつの名前をしょうかいしたいと思います。(カルケシウム、ボルテセラ、オペルクラリラ、トコフィリラ、コレップスロタリア、アメーバー、カエトノータト、マクロビオッス、がいます。

このような、びせいぶつが、水をきれいにしてくれているんです。なので、わたしたちが、水で、いろいろ使っていますよね。たとえば、のみ水、食器あらひ、せんたくき、おふろ、手あらひ、トイレ、いっぱいありますよね、この水は、全て、びせいぶつのおかげなのです。すごく、感しやし

ます。

思ったことを言います。

●下水道、つまり地下に行つたら、すごくくさかつたので、それだけきたないと言ふことがわかりました。

●さっきも、書きましたが、下水道は、すごく活やくしていますね。下水道がなかったら、川や海にながれますしたら、水もながれてこないし、魚もしんでしまいますよね。なので、すごく下水道は、活やくしています。

●下水道がつまると大へん、とさっき書きました。もうやばいことに・・・ばくはつしてしまいます。ぜつたいにダメです。もしばくはつしてしまつたら、きんじよの人にも、めいわくかかりますよね。

●マンホールが丸の理由三角形、四角形だとふたをあけると、中にふたが入つてしまうのです。なのでマンホールは、丸なのです。

●その洛西浄化センターの働いている人たちがすごい言葉くれました。それは、

「町をきれいにせいけつに!!」

と言ふ言葉を聞きました。

わたしは、それを聞いて、わたしもきそく正しい水の使い方をしなければならぬですよね。そしてわたしも、

「町をきれいにせいけつに」

の言葉を大切にしていききたいと思います。

洛西浄化センターで働いている人は、くさくても、じゅうみんなのためにいろいろしてくれているので、すごく感しやしています。やっぱりわたしは、くさい所で仕事は、むりだと思つていました。けれど、ほんとうに、じゅうみんなのために、働いてくれて、すごくうれしです。わたしも、

びせいぶつ、働いている人たちは、くろうして、仕事をしているんだなあと思ひました。4000年前から、水をきれいにする仕方は、いっしょなのがつくびつくりしました。

これから、

「町をきれいにせいけつに」

を大切にしていきたいと思います。

佳作

洛西浄化センターに行つて

向日市立向陽小学校

四年 表 澤花

わたしは、洛西浄化センターでこんなことを学びました。

まず、よごれた水がどのようにきれいになるかを教えてもらいました。まず、ちんさちというばしよで水の中の大きなゴミや土砂をとりのぞきます。つぎに、はんのうタンクというばしよで水にび生物の入った活性おでいをまぜて、空気を入れて、よごれをしずみやすくします。さいしゅうちんでんちというばしよで水とおでいにわけ、しょうどくをして、川や海に流します。このよごれをきれいにするばしよにじっさいに行くと、さいしよは、とてもにおいがすくて、本当にこんな水がきれいになるのかなと思ひながらすすんでいきました。だんだんすすむたびに水がどうめいにちかづいて、においもなくなつていつて、さいごのばしよで水をすくつて見せてもらうと、においはまったくなく、とてもきれいな水ができあがつていました。さいしよに見たとてもよごれていてにおいもすこい水とはぜんぜんちがいました。見たときとてもすこいなと思ひました。浄化センターにはまいにち一億トンごえのよごれた水がながれてくるそうです。それをこんなきれいにぜんぶでできるなんて、びせいぶつも、はたらいている人も、とてもすこいと思ひました。

地球に、人がのんだり、つかつたりできる水のわりあいには、わずか3%しかないそうです。キッチンからあぶらを少しながすだけで、そのあぶらが入った水をきれいにするにはすごくたくさん水がいるので水がたくさんむだになつてしまひます。水は地球にわずかしかなひ大切なしげんです。だからこそ、キッチンで

あぶらやたべものをながさない、などたいせつな水をむだにしないため、このけんがくでまなんだことを、これからの日じょうにいかそうと思ひました。